

学校名：志布志市立有明中学校
 校長名：堀 正信
 所在地：鹿児島県志布志市有明町野井倉
 1582番地
 電話番号：099-474-0011

I 実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は、本年度創立64周年を迎える全校生徒124名の中規模校である。田園地帯の中にあり、のどかで美しい景色に囲まれている。

教育目標に「豊かな心を持ち、自ら実践する生徒の育成」を掲げ、教育活動に取り組んでいる。生徒は、素直で明るく、生徒会活動も活発で、自主的に活動している。運動することがとても好きな生徒が多く、体育の授業や部活動に意欲的に取り組んでいる

2 学校の概要(平成22年5月1日現在)

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	1	2	2	1	6	
生徒数	男	15	21	23	1	60
	女	20	21	23	0	64
	計	35	42	46	1	124

教員数 14名(保健体育科 2名)

武道・ダンスの授業の状況

領域：武道 内容：柔道

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間数	8	8	8	0	24	
配当教員数	2	2	2	0	2	
(外部指導者)	1	1	0	0	1	
生徒数	男	15	21	23	1	60
	女	20	21	23	0	64
	計	35	42	46	1	124

領域：ダンス 内容：創作ダンス・現代的なリズムのダンス

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間数	6	6	6	(6)	18	
配当教員数	2	2	2	0	2	
生徒数	男	15	21	23	1	60
	女	20	21	23	0	64
	計	35	42	46	1	124

※ 武道、ダンスとも、特別支援学級在籍生徒は、交流学級で授業

II 授業事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

- 外部指導者との連携から、技能習得のポイントをはじめ、柔道の礼儀作法・特性や成り立ち、自分を律する心など、より専門的な知識や技能を生徒に指導することができるようになった。
- 保健体育科教員2名と外部指導者による複数での指導体制により、個に応じた指導・助言ができ、生徒の柔道学習への興味・関心が高まり積極的な活動がみられた。
- 学習ノートを活用することによって、指導内容を正確に伝えることができた。
- 地域連携指導実践校指定により、用具や活動の場を整えることで、生徒の学習意欲を高め、安全を確保した学習ができるようになった。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

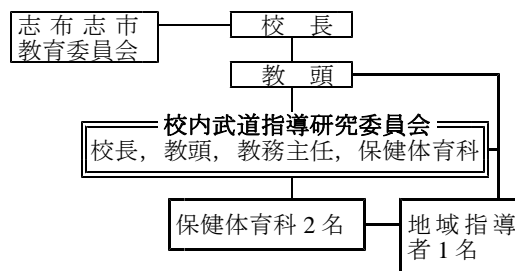
「柔道」の楽しさを味わわせる指導法の研究

(2) 研究テーマ設定のねらい

第1・2学年の生徒に対し、柔道学習に対する事前アンケートを実施した結果、9割の生徒が練習することに対する恐怖心を抱いていた。本校には、柔道部がなく、柔道の経験者が在籍していない現状がある。

そこで、柔道学習を展開するに当たり、生徒の柔道に対する「恐怖感」を払拭し、安全に、かつ生き生きと楽しく柔道学習に取り組みさせることが大切であると考え、研究テーマ『柔道』の楽しさを味わわせる指導法の研究を設定した。

(3) 取組体制



(4) 主な取組

<指導計画>

実施期日	指導内容
10月26日(火)	オリエンテーション(歴史・特性)
10月27日(水)	礼法・回転運動
10月29日(金)	基本動作
11月2日(火)	後ろ受け身・横受け身
11月16日(火)	前回り受け身
11月17日(水)	投げ技(支え釣り込み足・膝車)
11月19日(金)	投げ技(大腰)
11月30日(火)	固め技(けさ固め・横四方固め) 簡易の試合

外部指導者と連携して柔道の授業を進めるに当たり、校内武道指導研究委員会において、主に次の2点について共通理解を図った。

① 指導計画(第1学年：8単位時間)

② 各指導者の役割(指導)分担

毎時間授業前に役割分担等の具体的な打ち合わせを実施し、生徒の習得状況を確認しながら指導に当たった。

10月から保健体育教員2人と外部指導者の3人で柔道授業を実施した。1人の教員は、授業を中心的に進め、全体指導を行うとともに、もう1人の教員が技の示範時に「受」を担当した。外部指導者には、技能習得のポイントをはじめ、柔道の礼儀作法・特性や成り立ち、自分を律する心などについて指導してもらった。前述したように、本校には柔道部がなく、ほぼ全員が初心者であることから、示範を重視し、段階的な指導を進めていく必要があった。

そこで、1人の教員と外部指導者が「取」と「受」になり、ゆっくり実演を行う中で、もう1人の保健体育教員が、全体に対し技を身に付けるためのポイントについて指導を行った。

さらに、3人で分担し、グループでの課題解決学習や個に応じた学習の場における指導・助言をきめ細かく行った。

2 授業事例

(1) 柔道

① 目的

本校の保健体育教員の柔道指導経験がな

く、伝統的な行動様式をはじめ、技の示範に不安があった。そこで、外部指導者との連携により技能習得のポイントをはじめ、柔道の礼儀作法・特性や成り立ち、自分を律する心など、より専門的な知識や技能を生徒に指導することで、楽しく、柔道への意欲を高めさせることができると考えた。また、教員2名と外部指導者による複数体制で個に応じた指導・助言をすることで、一人一人への指導時間の確保が考えられる。

② 具体的な指導方法

ア 単元の指導計画の作成と外部指導者との打合せ

「柔道」の単元の指導計画を、外部指導者と話し合いをもちながら作成した。

1年生全員が初心者であることから、示範を重視し、段階的な指導を進めていく必要があり、学習内容や指導の流れをどのようにすればよいか確認した。最初は、柔道の礼儀作法、特性や成り立ち、自分を律する心などを外部指導者の方に講話をしてもらい、受け身などの基礎的技術を習熟できるように、安全に留意し計画を立てた。また、生徒に興味・関心をもたせ、柔道を好きになるよう指導内容についても打合せを行って工夫した。

イ 役割分担

授業を効果的に進めるために、教員2名と外部指導者1名の役割分担を明確にした。

T1(教員)・・・授業を中心的に進め、
全体指導を行う

T2(教員)・・・技の模範時に受になる

T3(外部指導者)・・・技の示範を行う

ウ 授業づくりの工夫

柔道未経験者が多いため、単元の指導計画を作成する際には、受け身の技術を習得させる時間を十分に確保した。また、投げ技は、受け身の取りやすい技を選択し習得させた。

③ 成果・課題

ア 研究の成果

- (ア) 外部指導者との連携から、より専門的な知識や技能を生徒に指導できるようになった。
- (イ) 教員2人と外部指導者による複数体制での指導で、個々の習熟度に応じた指導・助言が充実し、柔道学習への興味・関心を高めることができた。
- (ウ) 学習ノートを活用することにより、指導内容を生徒に分かりやすく伝えることができた。また、地域指導者との打ち合わせが十分にとれない場合も、学習ノートをもとに指導内容を短時間で共通理解し、本時のねらいを踏まえた授業が展開できた。
- (エ) 地域連携指導実践校指定により、畳等の施設面も整い、安全かつ充実した柔道学習が展開できるようになった。
- (オ) 授業前のアンケート調査では、柔道学習に対するイメージを、9割の生徒が「怖い」と答えた。しかし、授業後には、全ての生徒が「楽しい・来年は難しい技にも挑戦したい」と答え、生徒の柔道に対する興味・関心や意識の高まりが伺える。

最初は危なそうだし、怖いと思っていたけど、やってみると、すごく楽しかったです。今年習ったことを忘れずに、来年につなげたいです。外部指導の先生から来年も教えて欲しいです。

柔道をしたことがなかったので、不安や恐怖がありました。でも、実際にみると、すごく楽しくて練習するうちに受け身や技などもできるようになって本当に楽しかったです。来年もしたいです。

生徒の感想から

イ 今後の課題

- (ア) 男女差や習熟度への対応を考える必要がある。
- (イ) 外部指導者に仕事の合い間に指導をしていただいたため、打ち合わせの時間が取れないこともあった。指導者それぞれの役割分担を含めた事前打合せの時間を十分確保する必要がある。
また、外部指導者が時間に余裕のある時に、数時間先の指導内容・方法について確認しておく。
- (ウ) 柔道授業を実施する上で、マット運動の技能の習得等、小学校との連携を図る必要がある。

3 今後の展望

今後、武道の必修化において、生徒に武道についての興味・関心を高めるとともに、男女差や習熟度の差に対して、授業の中でどのように対応していくか課題である。その改善策として、外部指導者を継続して派遣してもらい、より専門的な知識や技能を生徒に指導していくことが効果的であると考えます。また、小学校との連携を充実し、マット運動における前転や後転等、柔道学習を行う上で基礎となる運動技能を確実に身に付けさせることが必要である。

本事業により、用具等も充実し、安全でより充実した柔道学習できるようになり、一層生徒の興味・関心をもたせることができたと考えます。更に、生徒に楽しく興味をもって柔道の授業を受けられるように研究・実践に取り組んでいきたい。